

教科名	国 語	週時間数	4	学年	2
使用教科書及び副教材等	・教科書 現代の国語2（三省堂） 中学書写1.2.3年（光村図書） ・副教材 すらすら基本文法（浜島書店） 新・国語の便覧（正進社） くりかえし漢字2（教育同人社） 国語スイッチ2（正進社） 積み上げ（明治図書）				

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」		
教科のねらい	・授業に積極的に取り組み、国語に対する興味関心を高める。 ・自分の見方や考え方を深め、表現の仕方に注意して話すこと聞くこと書くことができるようにする。 ・様々な文章を読み、目的や意図に応じて読み取る能力を育てる。 ・国語の基礎的な事項や知識を身につけさせる。		
授業の進め方	・教科書を中心に進める。必要に応じてプリント、資料、辞書などを活用する。 ・音読・表現活動など一人一人の活動を取り入れる工夫を行い、興味・関心を高める。 ・漢字の小テストや聞き取りテストなど確認テストを適宜行い、知識や聞く力などを身につけさせる。		
定期テスト	出題方針	授業内容を中心に問題を出題する。（読解問題・言語・作文問題など）	
	範囲 (予定)	1学期中間	詩 小説 説明文 漢字
		1学期期末	短歌 報告 漢字 文法
		2学期中間	評論 古典 漢字 文法
		2学期期末	漢文 詩 小説 文法 漢字
学習方法 (アドバイス等)	学年末		
	評論 小説 文法 漢字		
学習方法 (アドバイス等)	・授業に集中して取り組み、課題は自分で考える努力をしよう。 ・人の発表や発言はしっかりと聞き、自分の意見や考えは挙手してはっきりと述べよう。 ・提出物の期限を守ろう。 ・家庭学習の時間を確保しよう。 ・読書をしよう。新聞を読もう。		

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	<u>言葉の特徴や使い方に関する事項</u> ・話し言葉と書き言葉の特徴について理解し、言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。 ・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むとともに、文や文章の中で使うことができる。 ・話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。 <u>情報の扱い方に関する事項</u> ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。 ・情報と情報との関係の様々な表し方を理解し、使うことができる。 <u>我が国の言語文化に関する事項</u> ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。 ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くことができる。 ・本や文章から、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	・定期テスト ・小テスト ・単元テスト ・行動観察
	②思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、の各領域において、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	・定期テスト ・小テスト ・単元テスト ・行動観察
	③主体的に学習に取り組む態度	・各単元の内容の必要性や意味について考えようとしている。 ・各単元の内容について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・各単元の内容を活用した問題解決の過程を振り返り評価、改善をしようとしている。	・授業課題の記述内容 ・ワーク等の提出内容 ・振り返りシートの内容 ・行動観察

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	豊かに 想像する	・「名づけられた葉」 ・「セミロングホームルーム」 ・言葉発見① ・グループディスカッション	2 4 22 4	・リズムを感じ取りながら繰り返し音読する。 ・会話や行動から登場人物の心情の変化を読み取る。 ・敬語の意味と種類について理解し、活用する。 ・それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。
	5		・漢字を身につけよう1	1	・常用漢字の読み・書きについて理解を深める。 ・文章の構成や論理の展開の仕方を捉える。
		わかり やすく 伝える	・じゃんけんは、なぜグー・チョキ・パーの三種類なのか ・「人間は他の星に住むことができるのか」 ・手紙・メール 心をこめてわかりやすく書く	1 4 4	・主張と例示との関係に着目して読み、内容を理解する。 ・文章を読み、構成や論理の展開とその効果について考える。
	6		・言葉発見② ・漢字を身につけよう2	1 1	・相手に伝えたい事柄や気持ちを明確にして、手紙の形式をふまえて書く。 ・内容が正しくわかりやすく伝わるように、読み手の立場に立って読み返し、文章を整える。
	7	ものの 見方・ 感性を 養う	・短歌の世界/短歌十首 ・短歌・俳句 ・文法の窓1 ・「壁に残された伝言」 ・私の読書体験 ・漢字を身につけよう ・毛筆・硬筆	3 5 3 3 1 1 1	・言葉には、相手の行動を促すはたらきがあることに気づく。 ・常用漢字の読み・書きについて理解を深める。 ・短歌のリズムや表現の特色を理解し、作品の内容を捉える。 ・情景や感動が伝わるように、表現を工夫して書く。 ・用言の活用について理解する。 ・文章の全体と部分との関係に着目して読み、内容を理解する。
					・読書を通して自分の考えを広げたり深めたりする。 ・常用漢字の読み・書きについて理解を深める。 ・行書の字形の整え方に気をつけて書く。
2	9	論理的 に考 える	・「100年後の水を守る」 ・言葉発見③ ・プレゼンテーション	4 1 5	・文章と図表を結びつけて、筆者の考えを捉える。 ・上位語・下位語の関係について理解を深める。 ・社会生活の中から題材を探し、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫する。
	10	古典に 学ぶ	・漢字を身につけよう4 ・枕草子・徒然草 ・平家物語	1 6 5	・常用漢字の読み・書きについて理解を深める。 ・古人の心情を現代の自分たちとの対比の中で読み取る。 ・語句の意味に注意しながら音読し、古典のリズムを味わう。
	11		・漢詩の世界 ・漢字のしくみ1 ・漢字を身につけよう5	3 1 1	・漢詩の表現やリズムを捉え、読み味わう。 ・熟語の構成・熟字訓について理解を深める。 ・常用漢字の読み・書きについて理解を深める。
	12	情報を 関係づ ける	・複数の情報を関連づけて考えをまとめる ・投稿文 ・文法の窓2 ・漢字を身につけよう ・毛筆・硬筆	5 4 3 1 1	・意見と根拠などの関係に注意して、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、考えをまとめる。 ・多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする。 ・助詞・助動詞のはたらきや文の構成について理解する。 ・常用漢字の読み・書きについて理解を深める。 ・行書と仮名の調和に気をつけて書く
3	1	視野を 広げる	・動物園でできること ・漢字のしくみ2 ・論説文	4 1 5	・文章の全体と部分との関係や、主張と例示との関係に注意して、筆者の主張を捉える。 ・熟語の読みについて理解を深める。 ・伝えたい事柄がわかりやすく伝わるように、文章の構成や展開を工夫して書く。
	2		・漢字を身につけよう	1	・常用漢字の読み・書きについて理解を深める。
		振り返 って見 つめる	・「走れメロス」 ・漢字を身につけよう ・情報誌 ・毛筆・硬筆	5 1 6 2	・人物の言動の意味を考え、人物像とその変化を捉える。 ・常用漢字の読み・書きについて理解を深める。 ・集めた材料を整理し、伝える内容を検討するために編集会議を開き、話し合っただけで考えをまとめる。 ・これまでの学習を生活に広げる力をつける。
	3				

教科名	社 会	週時間数	3	学年	2
使用教科書及び副教材等	教科書 地理的分野「中学生の地理」(帝国書院) 歴史的分野「新しい社会 歴史」(東京書籍)				

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学びに向かう態度」		
教科のねらい	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。		
授業の進め方	授業は教科書の内容を中心に、授業プリント等も使ってすすめていきます。課題への取り組みは自己解決だけでなく、グループ活動を用いて解決を目指すこともあります。また、単元テストを行い基礎学力の定着をはかります。 単元ごとにレポートの提出やプレゼン発表等のパフォーマンス課題を行います。その際はパソコンを使ったり図書室で調べ学習をしたりします。		
定期テスト	出題方針	授業で学習したことを中心に、教科書の内容に準じて観点別に問題を出題します。「知識・技能」では、覚えた知識を問うだけではなく、知識を十分に活用して資料を読み取る力もはかります。「思考・判断・表現」では、知識をどのように実生活や実社会に活かすかを問う問題も出題していきます。	
	範囲(予定)	1学期中間	ヨーロッパ人との出会いと全国統一 江戸幕府の成立と対外政策
		1学期期末	身近な地域調査 日本の地域的特色
		2学期中間	九州地方 北海道地方 東北地方 中部地方
		2学期期末	関東地方 近畿地方 中国四国地方
		学 年 末	開国と近代日本の歩み
学習方法 (アドバイス等)	授業に集中し、意欲的に課題に取り組もう。ワークは繰り返し何度も行い学力の定着を図ろう。		

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解している ヨーロッパ人来航の背景とその影響や、その当時の対外関係などを基に、近世社会の基礎が作られたことを理解することができる 江戸幕府の成立と対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 社会の変動や欧米諸国の接近政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを理解している。	・定期テスト ・単元テスト ・行動観察
	②思考・判断・表現	日本の諸地域において、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 近世・近代の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している	・定期テスト ・パフォーマンス課題 ・行動観察
	③主体的に学習に取り組む態度	毎時間課題に対して自分なりの考えや感想を持ち、授業の内容を身につけようとしている 各単元の内容について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 各単元の内容を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。	・振り返りの内容 ・行動観察 ・提出物の内容

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4 5	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	・中世ヨーロッパとイスラム教 ・ルネサンスと宗教改革 ・織田信長、豊臣秀吉の事業 ・桃山文化	8	ヨーロッパの海外進出を宗教・政治・経済など多様な面から捉える。 織田・豊臣の内政や外交を多様な面から比較し、それぞれがめざした政治との関連を見出す。

		江戸幕府の成立と対外政策	・江戸幕府の成立 ・さまざまな身分制度 ・鎖国下の政策 ・琉球王国とアイヌ民族	6	中世と比較し、近世が安定した時代になったことを、政治や宗教、身分など多様な側面から捉える。独自の文化を発展させた琉球、アイヌ地方の歴史を知り、日本との関わりの推移を理解する。
		中間テスト		2	
	6	身近な地域調査	・地形図の使い方	2	地形図や地図記号の読み取り方を理解する。
		日本の地域的特色	・日本の地形と気候 ・日本の自然環境 ・日本の人口・エネルギー問題 ・日本の産業 ・日本の交通・通信網	11	世界と比べて日本がどのような環境か理解する。日本が抱える問題はどのようなものであったかを理解する。
	7	期末テスト		2	
		九州地方と北海道地方	・九州と北海道の自然 ・人々の生活のくふう ・自然を生かした産業	9	人々の生活の工夫や産業を自然環境と関連させて考察する。
2	9	東北地方	・第一次産業の工夫 ・伝統行事と文化	6	自然環境と農業の工夫を関連させて考察する。工業の変化と伝統の衰退の課題を解決する方法を考える。
		中部地方	・北陸、中央高地、東海の産業 ・名古屋大都市圏と工業発展	6	中部地方の分割の仕方を知り、それぞれの環境に合わせた産業について理解する。
		中間テスト		2	名古屋大都市圏を中核とした工業と交通の結びつきについて考察する。
	10	関東地方	・東京大都市圏と過密問題 ・過疎地域の産業と変化	5	過密による問題の原因を第三次産業の発展と関連させて考察する。
	11	近畿四国地方	・阪神工業地帯と環境問題 ・古都の景観の保全	6	工業の発展と環境への配慮のジレンマ課題について考察する。
	12	期末テスト		2	
		中国四国地方	・交通の発展と産業の影響 ・三重県のまちおこしと発展	8	三重県が今後発展していくために必要なことを考察する。
3	1	産業の発達と幕府政治の動き	・農業や諸産業の発達 ・幕府政治の安定と元禄文化 ・江戸の三大改革 ・新しい学問と化政文化 ・外国船の出現と天保文化	8	社会の安定から様々な産業が発達したことを室町時代の産業と比較しながら整理する。諸産業が発展する中で、幕府はどのような改革をしてきたかを理解し、多角的に評価する。
	2	欧米における近代化の進展	・イギリスとアメリカの革命 ・フランス革命 ・ロシアの拡大とアメリカ ・産業革命と資本主義	6	欧米における中世と近代を比較し、相違点を中心に整理する。産業革命によって労働者にどのような影響を与えた推測し、資本主義と社会主義を比較する。
		学年末テスト		2	
	3	欧米の進出と日本の開国	・欧米のアジア侵略 ・開国と不平等条約 ・江戸幕府の滅亡	5	開国に至った背景を理解したうえで、開国が日本に与えた影響について考察する。
		明治維新	・新政府の成立と三大改革 ・富国強兵と文明開化 ・近代的な国際関係 ・自由民権運動と立憲国家	9	日本の近世と近代化した明治の比較と、欧米の中世と近代の比較を関連させ、明治維新は日本の革命といえるのかについて議論する。

教科名	数 学	週時間数	3	学年	2
使用教科書及び副教材等	・「中学数学 2」(啓林館)・「数学の問題ノート2」(新学社)・「数問チェックノート2」(新学社)・「Wプリント」(新学社)・「数学ノート」(明治図書)				

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」		
教科のねらい	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、数学のよさを知り、数学と実社会との関連について理解を深め、数学を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を評価・改善しようとするなど、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。		
授業の進め方	授業は、基礎学力が確実に定着するように教科書の内容を中心にすすめていきます。また、機械的な計算方法を反復練習し、例題を通して問題の解決策を見い出させるようにしていきます。		
定期テスト	出題方針	教科書の内容に準じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」における基礎学力を問う問題を出題し、数学的に考える資質・能力の習熟度を計ります。	
	範囲 (予定)	1学期中間	1年生の復習、式の計算
		1学期期末	連立方程式、一次関数
		2学期中間	一次関数、図形の調べ方
		2学期期末	図形の調べ方、図形の性質と証明
		学 年 末	図形の性質と証明、場合の数と確率、箱ひげ図とデータの活用
学習方法 (アドバイス等)	授業に集中し、関心を持って意欲的に問題に取り組み、例題を参考にして自分の力で解いてみましょう。また、間違えた問題については、理解できるまで何度も解いてみるのが大切です。		

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	・簡単な多項式の加法、減法、乗法、除法を計算できる。 ・いろいろな連立方程式を解くことができる。 ・一次関数の基本を理解し、式、グラフの形で表すことができる。 ・仮定と結論を明確にして、証明を進める方法について理解できる ・各々の図形についての性質を理解できる。 ・問題を解決するために、起こりうるすべての場合を求めたり、確率を求めたりすることができる。 ・箱ひげ図や四分位範囲などを活用して、問題を解決する方法について理解できる。	・定期テスト ・小テスト ・単元テスト ・行動観察
	②思考・判断・表現	・1年で学習した内容と関連付けて考察し、多項式の計算方法を表現できる。 ・連立方程式を具体的な場面で活用することができる。 ・具体的な事象の中から取り出した2つの数量の関係を理想化したり単純化したりして1次関数とみなし、変化や対応の様子を調べたり、予想したりすることができる。 ・図形の性質を証明するために、見通しを立てて証明を書くことができる。 ・三角形の合同条件、定義、定理をもとに図形の性質を証明できる。 ・確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現することができる。 ・箱ひげ図や四分位範囲を用いてデータの分布の特徴や傾向を比較して読み取り、見出した結論や過程を批判的に考察して判断することができる。	・定期テスト ・小テスト ・単元テスト ・行動観察
	③主体的に学習に取り組む態度	・各単元の内容の必要性や意味について考えようとしている。 ・各単元の内容について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・各単元の内容を活用した問題解決の過程を振り返って評価、改善しようとしている	・プリント等の記述内容 ・ワーク等の提出内容 ・振り返りシートの内容 ・行動観察

年 間 授 業 計 画 書

学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	1. 式の計算	・式の加法、減法	3	・単項式、多項式、定数項の意味、単項式・多項式の次数と一次式、二次式の意味を理解する。 ・同類項の意味を理解し、同類項をまとめることができる。
			・いろいろな多項式の計算	2	・多項式の加法、減法の計算ができる。 ・多項式と数の乗法、除法の計算ができる。 ・式を簡単にしてから式の値を求めることができる。
			・単項式の乗法、除法	2	・単項式の乗法、除法の計算ができる。 ・乗除の混ざった単項式の計算ができる。
			・文字式の利用	3	・身のまわりの場合から数の性質を予想し、式の計算を利用して、その予想が成り立つ理由を説明することができる。 ・条件をかえて予想を立て、その予想が正しいかどうかを文字式を利用して説明するこ

	5	2. 連立方程式	・連立方程式とその解 ・連立方程式の解き方 ・連立方程式の活用	- とができる。 ・目的に応じて簡単な等式に変形することができる。 ・二元一次方程式とその解の意味を理解する。 ・連立二元一次方程式とその解の意味を理解する。 ・文字を消去する方法を理解できる。 ・加減法、代入法による連立方程式の解き方を理解できる。 ・係数が整数でない場合などの連立方程式を工夫して解ける。 ・いろいろな連立方程式の解き方を理解できる。 ・身のまわりの場面から問題を想定し連立方程式を利用して問題を解決できる。 ・連立方程式の解が、問題にあっているかどうかを吟味できる。 ・連立方程式を利用して、いろいろな問題を解くことができる。
	6	3. 一次関数	・一次関数 ・一次関数の値の変化 ・一次関数のグラフ ・一次関数の式を求めること ・方程式とグラフ	・一次関数の意味を理解できる。 ・事象の中で一次関数としてとらえることができるものの判断ができる。 ・一次関数の値の変化を考察し、変化の割合について理解できる。 ・一次関数以外の関数の変化の割合について理解できる ・一次関数のグラフの意味を理解できる。 ・比例のグラフと一次関数のグラフとの関係と切片の意味を理解できる。 ・傾きと変化の割合との関係を理解できる。 ・一次関数のグラフを、傾きと切片をもとにして書くことができる。 ・変域に制限がある場合について考えることができる。 ・一次関数のグラフから、傾きと切片を読み取り、式を求めることができる ・傾きとグラフ上の1点の座標から式を求めることができる。 ・グラフ上の2点の座標から式を求めることができる。 ・一次関数の表、式、グラフの相互の関連をまとめることができる。 ・二元一次方程式のグラフを理解し、そのグラフを書くことができる。 ・二元一次方程式のグラフを、2点を求めて書くことができる。 ・座標軸に平行な方程式のグラフを書くことができる。
	7			
2	9	4. 図形の調べ方	・角の平行線 ・多角形の角 ・三角形の合同 ・証明のしくみ	・連立方程式の解とそのグラフの交点の座標の関係について理解できる。 ・2直線の交点の座標を連立方程式を用いて求めることができる。 ・身のまわりの場面から問題を想定し、一次関数を利用して解決することができる。 ・一次関数のグラフから数量の関係を読み取ることができる。 ・動点のようすを一次関数でとらえることができる。 ・対頂角の性質を理解できる。 ・平行線と角の関係（同位角・錯角）について理解できる。 ・多角形の角の関係や性質を知り、角の大きさを求めることができる。 ・合同な図形の性質と合同条件を理解できる。 ・証明の必要性を感じ、仮定と結論の意味を理解できる ・証明の意味とそのしくみを理解できる。 ・証明の根拠となることががらがないか理解できる。 ・三角形の合同条件を使って簡単な図形の性質を証明することができる。 ・二等辺三角形の基本性質とその証明ができる。 ・定義と定理の意味が理解できる。 ・2角が等しい三角形は二等辺三角形であることを理解できる。 ・逆の意味とその真偽を理解し、あることがらが正しくないことを反例をあげて示すことができる。 ・正三角形とその性質を理解できる。 ・直角三角形の合同条件について理解し、図形の性質を証明することができる。 ・平行四辺形の性質を理解し、平行四辺形の性質の証明ができる。 ・平行四辺形になるための条件を理解し、その証明ができる。 ・長方形、ひし形、正方形の定義を理解し、平行四辺形との関係を理解できる。 ・底辺が共通な三角形の性質を理解し、平行線を使った等積変形ができる。
	10			
	11	5. 図形の性質と証明	・証明の進め方 ・二等辺三角形 ・直角三角形の合同 ・平行四辺形の性質 ・平行四辺形になるための条件 ・いろいろな四角形 ・平行線と面積	
3	1	6. 場合の数と確率	・四角形の性質の利用 ・確率の求め方 ・いろいろな確率 ・確率の利用 ・箱ひげ図 ・データを活用して問題を解決しよう ・章末問題等演習	・平行四辺形の性質、平行四辺形になるための条件を用いた証明ができる。 ・平行線を使った等積変形ができる。 ・同様に確からしいときの確率を求めることができる。 ・確率のとりうる範囲について理解できる。 ・樹形図や表などを用いて事象のもれや重なりがないように整理することができる。 ・確率を余事象の考えによって求めることができる。 ・くじを引く場で、先に引くか、後に引くかによるあたりやすさの違いを理解できる ・四分位範囲と箱ひげ図の意味を理解し、四分位数や四分位範囲を求めたり、箱ひげ図に表すことができる。 ・箱ひげ図を読み取ることができる。
	2			
	3	7. 箱ひげ図とデータの活用		
		1年間の復習等		

教科名	理 科	週時間数	4	学年	2
使用教科書及び副教材等	教科書「サイエンス2」2年生(啓林館) 資料集「グラフィック 最新理科資料集」(明治図書) 理科の完全学習(正進社)				

指導の重点	問題解決能力、思考力		
教科のねらい	<第1分野>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。 <第2分野>生命や地球に関する事物・現象を科学的に探究するために必要な能力を育成する。		
授業の進め方	授業は、黒板の内容をノートに書く。ICT機器で図表や実物を詳しく提示したり、プリントで問題練習等を行ったりする。実験・観察は班別で行い、プリントやクロムブックを使い、実験結果などをまとめるようにしていく。		
定期テスト	出題方針	授業中に行った内容を中心に、観点別の問題を出題する。「知識・技能」に関しては、自然の事物・現象についての基本的概念や原理・法則の理解についての問題や、授業で行った実験を中心に、目的や安全に行う注意点、結果についての問題を出題する。「思考・判断・表現」に関しては、モデル図などを使って基本的概念や原理・法則を説明するような科学的な見方や考え方についての問題を出題する。	
	範囲 (予定)	1学期中間	活きている地球、化学変化と原子・分子
		1学期期末	化学変化と原子・分子、生物の体のつくりとはたらき
		2学期中間	生物の体のつくりとはたらき
		2学期期末	電流とその利用
学 年 末	電流とその利用、地球の大気と天気の変化		
学習方法 (アドバイス等)	授業をしっかりと聞くこと。復習はプリントを中心に、モデル図や表・グラフ実験の図や方法・結果・安全に関する注意点などを確認し、押さえておくこと。		

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	物質やエネルギー、生命や地球に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・定期テスト ・テスト ・プリントの内容 ・行動観察(発言・発表)
	②思考・判断・表現	物質やエネルギー、生命や地球に関する事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、規則性や関係性を見だし、表現するなど、科学的に探究している。	・定期テスト ・テスト ・プリントの内容 ・行動観察(発言・発表)
	③主体的に学習に取り組む態度	物質やエネルギー、生命や地球に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	・プリントの内容 ・ワーク等の提出内容 ・振り返りシートの内容 ・行動観察(発言・発表) ・テスト ・調べ学習

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	活きている地球	語る大地	6	・地層のでき方、地層の岩石 ・地層、化石と大地の歴史 ・大地の恵みと災害
	5	化学変化と原子・分子	物質のなりたちと化学変化	1 4	・原子と分子 ・原子を表す記号と化学式、物質の分解
	6		いろいろな化学変化	1 2	・物質の化合、化学反応式 ・物質の酸化、酸化物の還元 ・化学変化と熱
			化学変化と物質の質量	7	・質量保存の法則
	7	生物の体のつくりとはたらき	生物のからだと細胞	5	・細胞観察 ・からだのおおまかなつくり
			生命を維持するしくみ	1 3	・栄養分の消化と吸収 ・呼吸のはたらき ・血液の循環 ・不要物の排出

2	9	電流と その利 用	行動するしくみ	9	・感覚器のはたらき、神経系 ・骨と筋肉
	10		いろいろな動物とその進化	9	・せきつい動物 ・無せきつい動物
	11		電流と電圧	19	・電流、電圧の性質 ・電気抵抗、合成抵抗 ・電力
	12		静電気と電流	5	・静電気の性質 ・電流の正体 ・放射線の性質と利用
3	1	地球の 大気と 天気 の 変 化	電流と磁界	12	・磁石と磁界、電流と磁界 ・電磁誘導、発電の仕組み ・直流と交流
	2		大気をめぐる水	12	・水蒸気と湿度、雲のでき方 ・水の循環
	3		天気の変化	10	・気象観測、高気圧と低気圧 ・気圧配置と風の吹き方 ・天気図記号、前線 ・大気の動き
			日本の天気	7	・日本の四季 ・自然の恵みと気象災害

教科名	音 楽	週時間数	Ⅰ	学年	2
使用教科書及び副教材等	教科書 中学生の音楽 2-3 上・下 中学生の器楽 副教材 MY SONG 音楽のハーモニー		(教育芸術社) (教育芸術社) (教育芸術社) (正進社)		

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的の学びに向かう態度」		
教科のねらい	・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 ・多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。 ・多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。		
授業の進め方	・授業の始めに発声練習を行う。 ・授業は一斉授業の形で進める。 ・合唱は、必要に応じてペアやグループ、パートごとに練習する。 ・授業の終わりに自己評価プリント等で反省とまとめ、次回への課題を探す。		
定期テスト	出題方針	授業の内容を中心に出題する。	
		範囲(予定)	
		1学期中間	
		1学期期末	1学期のまとめ
		2学期中間	
		2学期期末	2学期のまとめ
	学 年 末	1年間のまとめ	
学習方法 (アドバイス等)	・授業の約束を守る(遅刻しない・忘れ物をしない・集中して課題に取り組む) ・実技テストでは、自分の力を充分に出しましょう。 ・活動に積極的に参加し、目的意識を持って取り組むこと。		

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱等の音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	・定期テスト ・実技テスト
	②思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	・行動観察 ・実技テスト ・鑑賞ワーク提出
	③主体的に学習に取り組む態度	・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	・遅刻・忘れ物・提出物 ・発表 ・行動観察 ・振り返りプリント

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
Ⅰ	4		オリエンテーション 「校歌」	1	
	5	歌唱・指揮	「夏の思い出」 「楽しい発生のドリル①③」	4	・それぞれの部分の各声部の役割を理解し、全体の響きを感じ取りながら、表現を工夫する。
	6	鑑賞	鑑賞曲「小フーガト短調」	3	・フーガの音の重なり方やパイプオルガンの音色の特徴を感じ取って聴く。
	7	合唱	合唱コンクールに向けて 課題曲の練習	2	・自由曲・指揮者・伴奏者の決定。

2	9	合唱	合唱コンクール練習 各クラスの合唱曲	8	・パートリーダー中心に互いに協力し合って自主的な活動をする。 ・互いの演奏を聴き合い評価し合う中で、一つの音楽をつくることの楽しさやすばらしさを感じ取る。
	10	歌唱	「翼をください」	2	・言葉の抑揚と旋律との関係を理解して、歌詞の表す情景や心情と曲想を感じ取って歌う。
		歌唱	「荒城の月」	2	・曲のもつ情緒を味わい、言葉の抑揚と旋律線のもつ方向性について理解する。
	11	鑑賞	「交響曲第5番ハ短調」	3	・オーケストラの響きを味わい、様々な管弦楽器について理解する。 ・動機の発展や曲のしくみ(ソナタ形式)を理解して聴く。
3			「拍子とリズム」	2	・音符、休符、記号の名前をおぼえながら音楽を形づくっている要素を知覚する。
	12	鑑賞	オペラ「アイーダ」	3	・物語の進行や内容に応じて変化する表現を感じ取る。 ・音楽・演劇・美術・文学が関わってつくられている総合芸術オペラについて、理解を深める。
	1	鑑賞	歌舞伎「勧進帳」	3	・日本の伝統的な総合芸術に親しみ、その良さを味わう。
	2	歌唱	サンタルチア	2	・原語の歌詞や曲想からカンツォーネのもつ情緒を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して表情豊かに歌う。
	3	鑑賞	「サウンドオブミュージック」	2	・華やかな歌と芝居、ダンスが関わって作られているミュージカルの鑑賞をする。

教科名	美術	週時間数	1	学年	2
使用教科書及び副教材等	教科書「美術 2. 3」 光村図書 レタリング字典 秀学社 美術資料 秀学社				

指導の重点	「知識技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」		
教科のねらい	・ 楽しく美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を培い心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。 ・ 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し想像する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。 ・ 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高めよさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。		
授業の進め方	授業は、作品の制作だけでなく、美術資料などで知識や技能を幅広く身に付けられるようにする。また、自己評価シート等を使って授業への取り組みを振り返り、次の制作に活かせるようにする。鑑賞では、教科書・美術資料・パソコン教材・生徒作品等を鑑賞し、ワークシートを使って自分の感想・意見を述べられるようにしていく。		
定期テスト	出題方針	実技テスト中心。授業中に学習した内容を出題する。	
	範囲 (予定)	1学期中間	
		1学期期末	実技課題。授業での知識問題
		2学期中間	
		2学期期末	実技課題。授業での知識問題
	学 年 末	美術的総合力に関わる実技課題。知識問題	
学習方法 (アドバイス等)	・ 授業に意欲的、積極的に取り組む。 ・ チャイム着席、作業の準備、後かたづけがしっかりできるようにする。 ・ 提出物は期日を守って必ず提出する。 ・ 私語は慎み、根気よく制作に集中する。 ・ 各自の制作に必要な資料や材料を準備し、制作に生かすことができるようにする。		

評価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	・ 美術や文化についての知識、基礎的な技法について理解することができているか。 ・ 自然や身近なものを深く観察し、形や色彩の特徴や美しさをとらえて表現することができているか。 ・ 表現の基礎的技法を理解し、制作することができているか。	・ 作品、ワークシートなど ・ 行動観察 ・ 定期テスト
	②思考・判断・表現	・ 様々な角度から発想し、構想を練ることができているか。 ・ 制作過程において、修正、検討しながら、自分らしい表現を心がけることができているか。 ・ 自分の表現意図にあった材料・用具を生かして創意工夫し、制作することができているか。 ・ 作品の良さや美しさを感じ、味わうことができているか。 ・ 作者の心情や意図、表現の工夫を感じ取ることができているか。 ・ 美術と社会や生活との関わりについて、気づくことができているか。	・ 作品、ワークシートなど ・ 行動観察 ・ 定期テスト
	③主体的に学ぶに向かう態度	・ 授業に関心を持ち、意欲的、積極的に表現や鑑賞の創造活動に取り組むことができているか。 ・ 制作するための資料を探し用意するなど主体的に取り組めるか。 ・ 作品の意図を発表したり、他の生徒作品や発表に関心を持つことができているか。 ・ 資料や材料・用具の準備、後片付けができているか。 ・ 作品やワークシート等、提出期限を守って提出することができているか。	・ 作品の内容 ・ 授業中の発言 ・ 行動観察 ・ 自己評価 ・ 定期テスト

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	デザイン	・昨年度の内容の仕上げ	2	・平面構成の仕上げをする
	5	デザイン	・粘土で作るお弁当制作	10	・ どういったものが商品として価値や便利さ、面白さがあるか考えて製作する。 ・ ほかに人にリサーチをして何が需要とされているかなどを理解し、制作する。 ・ 粘土の特性を理解し、豊かな表現方法を行う。 ・ 作品に対する、PR作成も考えていく
	6				
	7		・ ポスター制作	1	・ 夏休みのポスターを学習してきた色彩や色の組み合わせなどを効果的に使って製作していく
2	9	鑑賞	・ ゴッホ ピカソ	2	・ ゴッホやピカソの人間性や生涯を学び、作品から読み取れる作者の気持ちや思いを学ぶ取る
	10	絵画	・ 点描	8	・ スーラーやシニャックなどの描画方法を学び、鑑賞して対象を点で表現することを学ぶ ・ 自分が選んだ作品を点描で表す
	11				
	12	デザイン 絵画	・ 立体感のある絵画 ・ 透視図法の基本	6	・ 平面において立体感を出すための技法を正しく学び 次年度に向けて立体感のある構成を考えていく
3	1	デザイン	・ トリックアート制作	6	・ 立体感を表す技法を参考に自分でそれを生かしなが らトリックアートを選択し、表現していく
	2				
	3				

教科名	保健体育	週時間数	3	学年	2
使用教科書及び副教材等	教科書 「中学保健体育」学研 副教材 「中学体育実技」学研				

指導の重点	「学ぶ意欲」		
教科のねらい	保健体育科では「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。」という目標を達成するために、まず、「学ぶ意欲」を高めていきます。そのことで自ら進んで活動し、個人（グループ）の課題（目標）を持って授業に取り組めるようになると考えます。そして、課題の解決を目指して考え・工夫する資質や能力、健康・体力の向上も期待できるものと考えます。		
授業の進め方	授業を進めるにあたって必要なこと（準備・片付け、初歩的なルールなど）を覚える。そして、基本的なこと（動作や技術、戦術など）を練習する。さらに、先生や友だちのアドバイスを参考にしながら、自分（たち）の課題（目標）を解決していくために、自ら進んで取り組み、考え・工夫したりしながら協力して練習や試合、記録計測をしていく。		
定期テスト	出題方針	授業中に説明したことや教科書、副教材から出題します。	
	範囲（予定）	1学期中間	
		1学期期末	1学期の範囲
		2学期中間	
		2学期期末	2学期の範囲
		学 年 末	3学期の範囲を中心に全範囲
学習方法（アドバイス等）	○自分の能力を精一杯発揮し、最後まで粘り強く取り組む。 ○日頃から健康管理に努め、欠席・見学をしない。 ○指示をよく聞いて仲間と協力して活動（準備、片づけ、練習など）し、まわりの安全を考えて取り組む。 ○効果的で安全な活動をするため、基礎的な事柄（服装や身なりを整え、運動種目の規則を守るなど）に注意し取り組む。 ・服装:学校指定の体操服を着用する。授業内容や気温によって、ウインドブレーカーや手袋の着用も認める。※体調不良等、特別な理由がある場合は連絡する。 ・安全のため、前髪は目にかからないようにする。髪が肩まで伸びていればゴムで束ねる。 - 靴下は、足首が隠れる長さの物を用意する。爪も短く切りそろえておく。		

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	・運動の特性、競技やルール、審判の方法を理解している。 ・安全や健康に対する基礎的な事柄が理解できている。（服装や身なり、場の設定、事故やケガの予防法） ・自己やグループの能力に応じた、技能・体力の高め方を理解できている。（課題の選び方、練習の仕方） ・自己の技能を精一杯発揮している。 ・授業に取り組む中で運動の特性に応じた技能の向上が見られる。 ・個人的技能や集団的スキルを記録会や試合などで発揮することができる。 ・ルール通りに審判や試合を行ったりすることができる。	授業観察 技能テスト 筆記テスト 学習カード など
	②思考・判断・表現	・運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した運動を考え、工夫している。 ・自己やグループの課題解決を目指し、練習方法やルール、作戦などを考え、工夫している。 ・指示をよく聞き準備・片付けを素早く正確に行い、活動場所や器具の安全を確認するなど事故やケガの予防を考え活動している。	授業観察 学習カード など
	③主体的に学習に取り組む態度	・自ら進んで運動し、仲間と協力しながら最後まで粘り強く取り組んでいる。 ・集合や整列など素早く行い、指示を集中して聞くなど、規律をもって授業に取り組んでいる。 ・日頃から健康管理に努めるなど、欠席・見学・遅刻・忘れ物をせず、授業に参加している。 ・勝敗や審判の判定、記録の結果などを公正な態度で受け入れている。 ・準備体操・整理体操など効果を意識して真面目に行っている。	授業観察 学習カード など 出欠、見学、忘れ物の回数、遅刻回数

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	体づくり運動	・ラジオ体操 ・集団行動 ・新体力テスト	10	・自己の体に関心をもち、自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりすることができる。
	5	体育理論	・運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全	3	・スポーツの特性に応じた学び方や、安全の確保の仕方を理解する。
		陸上競技	・ハードル走	8	・自己の能力に適した課題をもって競技を行い、その技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができる。
		器械運動	・跳び箱	8	・自己の能力に適した課題をもって競技を行い、その技能を高め、技がより良くなる。
	7	水泳	・クロール ・平泳ぎ ・背泳ぎ	8	・自己の能力に適した課題をもって競技を行い、その技能を高め、続けて長く泳いだり、速く泳いだりすることができる。
2	9	体づくり運動	・ラジオ体操 ・集団行動	4	・自己の体に関心をもち、自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりすることができる。
	10	ダンス	・現代的なリズムのダンス	8	・グループの課題や自己の能力に適した課題の解決を目指して、練習の仕方や発表の仕方を工夫することができる。
		健康な生活と病気の予防	・生活習慣病とその予防	3	・生活習慣病を引き起こす要因と予防の仕方について理解する。生活習慣病の予防の観点から、自分の生活を振り返る。
		陸上競技	・長距離走	6	・自己の能力に適した課題をもって競技を行い、その技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができる。
	11	健康な生活と病気の予防	・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康	3	・喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること、また、そのような行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それらに適切に対処する必要があることを理解する。
		球技	・ネット型	8	・チームの課題や自己の能力に適した課題の解決を目指して、ルールを工夫したり作戦を立てたりして練習の仕方やゲームの仕方を工夫することができる。
		健康な生活と病気の予防	・喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ	3	・喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること、また、そのような行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それらに適切に対処する必要があることを理解する。
	12	傷害の防止	・傷害の原因と防止 ・交通事故の現状と原因 ・交通事故の防止 ・自然災害に備えて	4	・傷害の多くは安全な行動、環境の改善によって防止できることを理解する。 ・災害時には状況を正しく判断し、冷静・迅速・安全に行動し災害情報を把握することを理解する。 ・日頃から災害に備えておく必要があることを理解する。
3		武道	・剣道	8	・伝統的な行動の仕方を守ることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配り、礼法などの考え方を理解する。
	1	傷害の防止	・応急手当の意義と手順 ・意識がない場合の手当て ・きずの手当て	3	・応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることを理解する。 ・応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることを理解する。
	2	陸上競技	・走り高跳び	8	・自己の能力に適した課題をもって競技を行い、その技能を高め、記録を高めたりすることができる。
	3	球技	ベースボール型	8	・チームの課題や自己の能力に適した課題の解決を目指して、ルールを工夫したり作戦を立てたりして練習の仕方やゲームの仕方を工夫することができる。

教科名	技 術	週時間数	1	学年	2
使用教科書及び副教材等	・新しい技術・家庭 技術分野（東京書籍）				

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学びに向かう態度」		
教科のねらい	生物育成・エネルギー変換についての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して課題を見だし、課題の解決方法を考え、実行するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、ものづくりのよさを知り、技術と生活や社会との関連について理解を深め、技術を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、課題解決の過程を評価・改善しようとしたりするなど、考える資質・能力を育成することを目指す。		
授業の進め方	授業は、基本的な知識・技能が実践の中で生かせるように、課題に取り組む中で活用する。また、製作品の設計・製作では課題解決のための構想をもとに計画を立て、取り組んでいく。取り組みについて評価・改善・修正をする。		
定期テスト	出題方針	授業や作業内容を中心に、「知識・技能」「思考・判断・表現」における基礎学力を問う問題を出題し、技術的な考え方や資質・能力の習熟度を計ります。	
		範囲（予定）	
		1学期中間	
		1学期期末	コンピュータの基本・エネルギー変換
		2学期中間	
		2学期期末	生物育成・エネルギー変換
	学 年 末	エネルギー変換・コンピュータの操作方法	
学習方法 （アドバイス等）	日常の中から課題を見だし、関心を持って意欲的に課題の解決方法を構想し、情報を共有しながら課題解決に取り組む。取り組みの中で必要があれば構想を修正し、課題解決後には評価・改善・修正してよりよい方法を考える。		

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	・生物育成についての技術についての科学的な原理・原則や基礎的な技術の仕組みが理解できる。 ・安全、適切な栽培または飼育、検査等ができる。 ・生活や社会、環境と生物育成の技術の関わりを理解している。 ・電気、運動、熱の特性等の原理・法則と、エネルギーの変換や伝達等に関わる技術の仕組みが理解できる。 ・保守点検の必要性について理解できる。 ・安全・適切な製作、実装、点検及び調整等ができる。 ・生活や社会、環境とエネルギー変換との技術の関わりを理解している。 ・コンピュータを適切に活用することができる。	・定期テスト ・直前プリント ・製作品 ・行動観察
	②思考・判断・表現	・生活や社会の中から生物育成に関わる問題を見いだして課題を設定することができる。 ・育成環境の調節方法を構想して育成計画を立てることができる。 ・栽培又は飼育の過程や結果の評価、改善、修正することができる。 ・生物育成の技術の評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、改良と応用について考えることができる。 ・生活や社会の中からエネルギー変換に関わる問題を見いだして課題を設定することができる。 ・電気回路又は力学的な機構等を構想して設計をすることができる。 ・製作の過程や結果の評価、改善、修正をすることができる。 ・エネルギー変換の技術の評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、改良と応用について考えることができる。	・レポートの内容 ・直前プリント ・定期テスト ・行動観察
	③主体的に学習に取り組む態度	・自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。 ・自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるように改善・修正しようとしている。 ・自らの知識・技能を身に付けられるように取り組もうとしている。	・定期テスト ・直前プリント ・行動観察

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	生物育成	- 生物を育てる技術 - 植物を育てる技術 - 動物を育てる技術 - 水産生物を育てる技術	2	- 生活や社会を支える生物育成の技術や、問題解決の工夫について調べることができる。 - 作物、動物、水産生物の成長、生態等について科学的な原理・原則を説明できる。 - 生物の育成環境を調節する方法等の仕組みを説明できる。
	5		- 水菜の栽培 - 栽培計画 - 播種 - かん水 - 追肥 - 害虫駆除 - 収穫 - 評価	8	- インターネット等を活用して情報を収集できる。 - 収集した情報を基に課題解決の方法を構想できる。 - 構想を基に栽培計画を立てることができる。 - 適切に栽培管理・運用ができる。 - 状況に応じて管理方法を見直し、改善・修正できる。 - 作物の状態を観察し、育成に必要な課題を見いだすことができる。 - 課題を解決する方法を考え、具体化することができる。 - 栽培管理中又は収穫後に作物や管理方法について評価・改善・修正を考えることができる。
	6		栽培の基礎知識		
	7	情報	- 社会の発展と生物育成の技術 - 情報通信ネットワーク	2 1	- よりよい地域社会の構築を目指して、生物育成を評価し、適切な選択、管理・運用の在り方を考えることができる。 - 情報通信ネットワークの基本的な構成について理解できる。 - 情報機器を識別する工夫について理解できる。
2	9	エネルギー変換	- 動力を伝える技術 - ギア比 - ギアシステム組み立て、製作 - 基本的な電気自動車の構造を製作する。 - 速さを追求した電気自動車を製作する。 - 力を追求した電気自動車を製作する。 - 課題解決のための目標を立ててオリジナル電気自動車を設計・製作する。 - 電気自動車を評価・改善する。	10	- 力や運動を伝達する仕組みの特徴や共通部品について理解できる。 - 設計に基づき、安全を踏まえた製作品の組み立て・調整ができる。 - 機器の構造、各部のはたらきについて理解できる。 - 課題を解決するための構想を考えることができる。 - 使用目的や使用条件を明確にし、社会的、環境的、経済的側面から設計することがきできる。 - 設計をもとに電気自動車を製作することができる。 - 製作した電気自動車を評価・検討し、修正・改善をすることができる。
	10				
	11				
	12		電気に関する技術 - 電気に関する基礎知識 - 電気回路 - 発電、送電 - 保守点検・管理 - 電気の安全な使い方	3	- 電流、電圧、抵抗の関係が理解できる。 - 回路の構造を理解し、回路図をかくことができる。 - 発電の種類と特徴を理解し、社会的、環境的、経済的側面から判断し、選択することができる。 - 生活の中で必要な電気機器の安全な使用・管理・点検の方法を調べることができる。 - 電力を求めることができる。
3	1		電気回路の設計	4	- 電子部品のはたらきが理解できる。 - 構想した回路を回路図で表すことができる。
	2				
	3		電気製品の製作 - はんだ付けの仕方 - 電気回路の検査、点検 - 製作品の組み立て - 製作品の評価	4	- 電子部品を基板にはんだ付けすることができる。 - 基盤に流れる電気を検査、点検することができる。 - 製作品の評価、改善について考えることができる。
			社会の発展とエネルギー一年間の技術	1	よりよい地域社会の構築を目指して、エネルギー変換の技術を評価し、適切な選択、管理・運用の在り方を考えることができる。

教科名	家 庭	週時間数	1	学年	2
使用教科書及び副教材等	・新しい技術・家庭 家庭分野 (東京書籍) ・技術・家庭ノート 家庭分野 (正進社)				

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学びに向かう態度」		
教科のねらい	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。		
授業の進め方	基本的な知識・技能が生活の中で生かせるよう、各自生活における課題を話し合いながらまとめる。また、実習は可能な限り行い基礎的な技能の定着を図る。		
定期テスト	出題方針	授業や実習を中心に、「知識・技能」「思考・判断・表現」における基礎的な内容を出題する。	
	範囲 (予定)	1学期中間	
		1学期期末	幼児の生活と遊び、おもちゃ作り
		2学期中間	
		2学期期末	私たちの衣生活、幼児のおもちゃ作り、調理実習
		学 年 末	幼児の生活と家族、私たちの住生活、被服実習
学習方法 (アドバイス等)	それぞれの単元について授業をよく聞き、教科書、プリント、ハンドノートを中心に基本的な知識を確認する。		

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	・衣服の働きについて説明することができる。 ・着ていない衣服の活用方法を考えることができる。 ・既製の服の表示を読み取り、素材の特徴を説明し素材や汚れの性質に応じた手入れの方法をまとめることができる。 ・幼児の不足がちな栄養素を補い、簡単に作れるおやつを作り、手作りのおやつについてまとめることができる。 ・中学生としての自立を考え、家族とのためにできることを実践しまとめることができる。 ・災害に備えた住まい方を考え、工夫し表現することができる。	・定期テスト ・ワークシートの内容 ・実習レポートの内容 ・行動観察
	②思考・判断・表現	・目的に応じた衣服と個性を表現した衣服を考えまとめ、表現することができる。 ・既製の服の表示を読み取り、素材の特徴を説明し素材や汚れの性質に応じた手入れの方法をまとめ、実生活での課題とその解決方法を考察し表現することができる。 ・不足しがちな栄養素を補い、簡単にできるおやつを作り、課題と解決策を考察することができる。 ・自分の家の災害に備えた住まい方をまとめ、工夫し表現することができる。	・ワークシートの内容 ・実習レポートの内容 ・定期テスト ・行動観察
	③主体的に学習に取り組む態度	・自分なりの考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。 ・自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるように改善・修正しようとしている。 ・自らの知識・技能を身に付けられるように取り組もうとしている。	・授業出席 ・課題等の提出状況 ・振り返りシートの内容 ・ワークシートの内容 ・行動観察

年 間 授 業 計 画 書

学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	幼児の生活と家族	・ 幼いころを振り返ろう	7	・ 自分の幼いころを振り返り、周囲の人とのかかわりに気付く。 ・ 幼児の体の発達について理解できる。 ・ 幼児の心の発達について理解できる。 ・ 幼児の生活習慣・社会的生活習慣について理解できる。
	5		・ 幼児の体の発達について考えよう		
	6		・ 幼児の心の発達について考えよう		
			・ 幼児の生活習慣の習得について考えよう		
			・ 幼児の生活と遊びを知ろう		・ 幼児にとって遊びの意義について理解できる。

	7		・ 幼児のおもちゃを製作する	7 2	・ 幼児の心身の発達に応じたおもちゃや遊び方について考え、工夫することができる。 ・ 安全で楽しく、発達に応じたおもちゃの製作ができる。近隣の自分がお世話になった園におもちゃを作り、園児との交流を深める。 ・ 目的に応じて衣服を着用することの大切さに気付くことができる。
2	9 10 11 12	衣生活 調理実習 これからの私と家族	・ 衣服の働きを考えよう ・ 衣服を計画的に活用できるようになろう ・ 必要な衣服を選択しよう ・ 幼児のおやつを作ろう ・ 中学生にとっての家族について考えよう	8 3 1	・ 目的に応じて衣服を着用することの大切さに気付くことができる ・ 衣服計画を立てることができる。 ・ 着ていない衣服の活用方法を考えることができる。また衣服の材料や状態に応じて適切な手入れができる。 ・ 環境に配慮したリサイクルなどの考え方ができるようになる。 ・ 幼児にとっておやつの必要性が分かる。 ・ 市販のおやつと、手作りのおやつの特徴をまとめることができる。 ・ 不足しがちな栄養素を補え、簡単に作ることができるおやつを作る ・ 家族の関わりや、これからの自分の家庭生活について考えることができる。
3	1 2 3	住生活と自立	・ 住まいの役割と住まい方が分かる ・ 日本の住まいと住まい方が分かる ・ 住まいの安全について考えよう ・ 災害に備えた住まい方について考えよう	6	・ 住まいの役割と家族との関わりについて理解し、生活行為と必要な住空間について考えることができる。 ・ 日本の住まいと住まい方の特徴をまとめることができる。 ・ 住まいの中の危険な場所について、事故防止の対策を考えることができる。 ・ 災害に備えた住まい方を考え、工夫し表現することができる。

*内容は行事等で変更になることがあります。

教科名	英 語	週時間数	4	学年	2
使用教科書及び副教材等	NEW HORIZON English Course 2(東京書籍) 積み上げ (明治図書) 英語ワークノート (新学社)、英語のパートナー(正進社)、ファイル				

指導の重点	「表現力」「問題解決力」「学ぶ意欲」		
教科のねらい	「聞く」「読む」「話す(やり取り)」「話す(発表)」「書く」の5つの領域の力の定着を目指します。その基礎力を活用して、英語でコミュニケーションをする喜びを知り、「学びに向かう力」を育みます。相手を理解し、相手に自分の思いを伝えるため、場面や状況に適した英語の「表現力」を身に付けることを目指します。		
授業の進め方	・新出の文法、単語を利用したコミュニケーション活動をペアやグループで行い、友だちと助け合いながら学習を進めます・単語テストや基本文テスト、また振り返りシートの活用を通して学習の定着を図ります。		
定期テスト	出題方針	授業で学習した内容を中心に以下の観点別に出題します。 「知識・技能の能力」…リスニング問題や授業で学習した範囲の単語・文法を用いた長文や、文法に関する出題をします。 「思考・判断・表現の能力」…自分の意見や考えを書く問題を中心に出版します。	
	範囲(予定)	1学期中間	Unit0、1 / Let' s talk 1 / Grammar for communication 1 / Learning HOME ECONOMICS in English / Let' s Listen1
		1学期期末	Unit 2 / Let' s talk 2 / Grammar for communication3 / Let' s Listen2 Unit3 / Let' s Write1 / Learning TECHNOLOGY in English / Stage Activity1 / Let' s Read1
		2学期中間	Let' s listen 3 / Unit4 / Let' s Write 2 / Grammar for communication 4 / Let' s listen 4 / Unit 5
		2学期期末	Let' s talk 3 / Let' s listen 5 / Unit6 / Let' s Talk 4 / Grammar for Communication 5 / Stage Activity 2 / Let' s Read2 / Let' s listen 6
		学 年 末	Unit7 / Let' s talk5 / Grammar for communication6 / Let' s Listen 7 / Stage Activity3 / Let' s Read 3
学習方法(アドバイス等)	・授業に集中し、ペア／グループ活動に意欲的・積極的に間違いを恐れず、取り組もう。 ・家庭学習をしっかりと行い、予習(単語調べ、本文写し)・復習する習慣をつけよう。 ・新出単語、基本文、本文、大切なポイントをまとめたノートを活用しよう。 ・提出物は期限を守り、理解度が高まるような工夫をして仕上げ提出しよう。 ・わからないところや疑問点はそのままにせず、早めに質問して解決しておこう。		

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	授業で学習した単語・文型を理解し、聞いた内容・書かれた情報を適切に聞き取り、読み取ることができる。	・定期テスト、小テスト ・振り返りシートの内容
	②思考・判断・表現	授業で学習した単語・文型を用いて、自分の考えや気持ち等を表現することができる。	・定期テスト、小テスト ・パフォーマンステスト
	③主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心を持ち、授業時の言語活動に積極的・意欲的に取り組んでいる。 相手(話し手、聞き手、読み手、書き手)に配慮しながら、主体的に英語を用いてやり取りをすることができる。	・授業の様子 ・振り返りシートの内容 ・ノート、ワークの内容や提出状況

年 間 授 業 計 画 書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
I	4	Unit 0 My spring vacation Unit 1 A Trip to Singapore	・過去形、過去進行形、 There is [are]… ・be going to、 ・助動詞 will ・SV00SVOC	2 12	・過去形の用法を理解し、運用する。 ・もののある場所を説明することができる。 ・be going to / willの用法を理解し、運用することができる。 ・休暇や週末の予定についてまとめることができる。
	5	Let' s talk 1 Grammar for Communication 1 Learning Home Economics	・苦情を言う、謝るときの言い方 ・5つの文構造	1 1 1	・苦情を言ったり謝ったりする言い方を使って会話ができる。 ・5つの文の構造を理解することができる。 ・英語で書かれた食品表示を理解することができる。 ・機内放送を聞き、必要な情報を聞き取ることができる。

	6	Let' s Listen 1 Unit 2 Food Travels around the world Let' s Talk 2 Grammar for Communication 2 Let' s listen2 Unit 3 My future job. Let' s write 1 Grammar for Communication 3 Learning Technology Stage Activity 1 Let' s Read 1 Let' s listen 3	・接続詞 when、 if、 that、 because ・May I…? ・Could you…? ・不定詞 副詞用法、名詞用法、 形容詞用法 ・It is … + to ・Word Room (仕事) ・既習事項の総復習	1 12 1 1 1 4 2 1 12 1 1 1 4 2	・ when、 if、 that、 becauseを理解し、運用することができる。 ・好きな食べ物やその理由についてやりとりすることができる。 ・許可を求めたり、依頼したりする表現を運用できる。 ・適切な接続詞を使うことができる。 ・質問や答えを聞き取ることができる ・不定詞の用法について理解し、運用することができる。 ・自分が体験したことや学んだことについて伝えることができる。 ・メッセージを聞いて内容を理解し、返信を書くことができる。 ・不定詞を使って目的やしたいことを伝えることができる。 ・情報技術について自分の考えをまとめることができる。 ・自分に合うと思う仕事について書くことができる。 ・説明文を読んで時計の歴史を読み取ることができる。 ・天気予報を聞き、必要な情報を聞き取ることができる。
2	9 10 11 12	Unit 4 Homestay in the U.S Let' s Write 2 Grammar for Communication 4 Let' s Listen 4 Unit 5 Universal Design Let' s talk 3 Let' s Listen 5 Unit 6 Research Your Topics Let' s Talk 4 Grammar for Communication 5 Stage Activity 2 Let' s Read 2 Let' s listen 6 Unit 7 World Heritage Sites Let' s talk 5	・have to・don' t have to ・助動詞 must must not ・動名詞 ・疑問詞 + to ・主語+be動詞+形容詞+that Could you tell me how to …? ・比較表現 ・…r、 the…est ・more、 the most ・better、 best ・as…as ・Shall…? ・受け身 ・Do you want to …? ・I' d like to、 but I can' t.	1 12 1 1 1 12 1 4 4 2 1 12 1 4	・助動詞や動名詞について理解し、運用することができる。 ・習慣やマナーについてたずねたり、伝えたりできる。 ・お世話になった人に感謝に気持ちを伝えることができる。 ・できることやしなければならないことを伝えることができる。 ・運行情報を聞き、必要な情報を聞き取ることができる。 ・ <疑問詞 + to> や <主語+be動詞+形容詞+that> の文を理解し、 運用することができる。 ・乗り物での行き方をたずねたり答えたりできる。 ・留守番電話を聞き、内容を理解することができる。 ・比較表現について理解し、運用することができる。 ・身近なことについて特徴を比較して説明することができる ・好みや要望を伝える表現を理解し、運用することができる。 ・形や性質を比較して伝えることができる。 ・クラスで人気のものを調べ、結果を発表することができる。 ・登場人物の心情の変化を読み取ることができる。 ・商品の特徴を聞き取ることができる。 ・受け身の形を理解し、運用することができる。 ・電話での対応の表現を理解し、運用することができる。 ・受け身を用いて、異なる視点で情報を伝えることができる。
3	1 2 3	Grammar for Communication 6 Let' s Listen 7 Stage Activity 3 Let' s Read 3	・既習事項の総復習 ・Word room (場所)	1 4 2	・イベントの情報を聞き取ることができる。 ・自分の町のおすすめの場所について伝えることができる。 ・伝記を読んで、時系列を整理しながら内容を理解できる。

教科名	道 徳	週時間数	1	学 年	2
使用教科書及び副教材等	・教科書 あすを生きる(日本文教出版) ・副教材 ポートフォリオ				

指導の重点	「思いやりの心を持つ生徒」の育成
教科のねらい	・基本的な生活習慣を身につけるとともに、心身の健康の増進を図る。 ・自己肯定感が持てるようになる。 ・他の人に対する思いをもち、自分の思いを素直に言える優しい雰囲気を作る。 ・自分の役割に責任をもち、自ら行動できるようになる。
授業の進め方	・授業では、教科書「あすを生きる」を活用する。教科書付属のノートも活用し、自分の思いや考えを表現するとともに、班やクラスで意見を交流し、考え方の視野を広げていく。また副教材ポートフォリオ、必要に応じてプリントなど教科書以外の教材も活用していく。
定期テスト	
学習方法 (アドバイス等)	・教科書やワークシート、教科書付属ノート、ポートフォリオを活用していく。 ・人の発表や発言をしっかりと聞いたりできるような、話し合いの場を作る。その上で自分と他の人の考えの違いを認め、自分の意見をはっきりと言えるような話し合いを行う。 ・学習の中で出てくる問いかけや疑問に対して、自分自身の考えや思いを表記していく。
評価	学習した項目を通して、学んだことや、感じ取ったこと、受け取り方や考え方など変化の様子を文章によって評価する。

年 間 授 業 計 画				
学期	月	内 容 項 目	時数	学 習 内 容
1	4	・よりよく生きる喜び ・勤労 ・礼儀	1 1 1	・自分の弱さと戦え ・おばあちゃんがくれた“おまじない” ・挨拶は言葉のスキンシップ
	5	・生命の尊さ	1	・最後のパートナー
	6	・自主、自律、自由と責任	1	・五月の風-カナ-
		・友情、信頼	1	・五月の風-ミカ-
		・公正、公平、社会主義	1	・リスペクトアザーズ
	7	・思いやり、感謝	1	・名乗り出なかった友
		・真理の探究、創造	1	・戦争取材する
2	9	・国際理解、国際貢献	1	・海と空-檜野の人々
		・遵法精神、公德心	1	・美しい鳥取砂丘
	10	・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 ・よりよい学校生活、集団生活の充実 ・公正、公平、社会正義	1 1 1	・和樹の夏祭り ・ハイタッチがくれたもの ・ヨシト
	11	・自主、自律、自由と責任	1	・ネット将棋
		・感動、畏敬の念	1	・樹齢七千年の杉
		・向上心、個性の伸長	1	・「自分」って何だろう
	12	・勤労	1	・小さな工場の大きな仕事
		・生命の尊さ	1	・体験ナースをとおして
		・社会参画、公共の精神	1	・行動する建築家 坂 茂
	12	・我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	1	・さよなら、ホストファミリー
		・思いやり、感謝	1	・夜のくだもの屋
		・希望と勇気、克己と強い意志	1	・初心
		・友情、信頼	1	・ライバル

3	1	・ 遵法精神、公德心		・ オーストリアのマス川
		・ 自然愛護		・ よみがえれ、えりもの森
		・ 国際理解、国際貢献		・ ダショー・ニシオカ
	2	・ 相互理解、寛容		・ コトコの涙
		・ 社会参画、公共の精神		・ 門掃き
		・ 節度、節制		・ 避難所にて
	3	・ 生命の尊さ		・ 命を見つめて—猿渡瞳さんの六百四十六日—
		・ よりよく生きる喜び		・ 足袋の季節
		・ 友情、信頼		・ 恋する涙
		・ 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度		・ 包む
		・ 家族愛家庭生活の充実		・ きいちゃん